

平成28年度 第6回早咲き椿展 報告

事務局 小泉不二男

今回の椿展でまずもって嬉しかったのは、当日（12月4日）早朝、会場の亀城プラザに来場者が行列されたことです。

会員がこれから準備をはじめようとした矢先の8時半、見慣れぬ顔が二つ。初めてお会いする新入会員の方かと思いきやプレゼント苗の西王母をどうしても貰いたい、先着順に遅れてなるものかとばかりに会場入り口に詰めかけたのでした。

冬晴れの好天の下で椿展の幟はためくなか、さらに次々と集まり始めて、入り口から中の準備の様子をそれぞれが何度も覗き込まれていました。

列をなして開場を待つ方たちの視線を受け、会員一同欣喜雀躍、軍手に花鉢姿で会場づくりにかかった次第です。

並ばれた皆さんのお目当ては、無料配布される椿苗と椿の切り枝。用意した数は各15人分。「西王母はもらえますか」との心配そうな声が聞こえてきます。いつの間にか西王母が広まっていたようです。これも早咲き椿展効果といったら手前味噌にすぎるでしょうか。

10時開場、40名ほどの方が場内に“なだれ込み”、瞬時に開場が満杯。切り枝や即売苗の前は人ばかりで芋を洗うがごとし。多めに切り枝を用意したので間に合いました。

会場では顔なじみの来場者も多く、「また来ました」「しばらくです」などあちらこちらで再会の挨拶が交わされていました。



開場とともに多くのお客様が来場
お目当ては椿苗それとも切り枝？



西王母：秋咲きの代表名花
早咲き椿展によって広まったか。

2週間前に11月として54年ぶりの初雪が降り、冬の到来がいつもより早いという北国のニュースが頻々と流れ、花の咲き具合を心配しました。

椿展前日、美浦村の椿畑には山田和幸さん、有田宏二さん、染谷彰さんが花切りに集まりました。

いつもと異なり侘介の開花が遅れているものの、白露錦が満開、太郎庵もバケツ2つつ採れました。テーマ花の東方朔は、盛りを過ぎたものの山田さんが木に登り、プレゼント用の蕾付き枝を探して次々に切ってくれました。

守谷の染谷椿園には、2日前に飯田庸夫さんと阿部成敏さんが雨にもかかわらず花取りに行って、大きな花箱2つを会場に持ち込みました。

当日朝、例年より多くの会員が集まりました。できるだけ多くの会員に参加を促すよう、役員が声掛けをしたことも功を奏したようです。

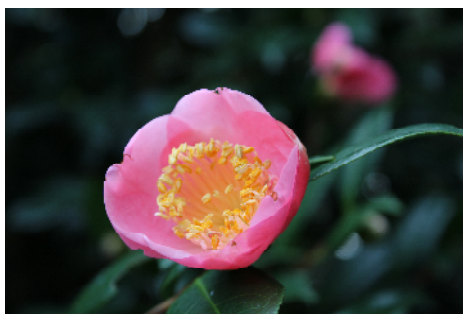
入会間もない池田弘さん、小宮威彌さんも加わり、皆さんでテーブルやパネル設置、コップ並べにと開場時間の10時に向けて目の回る忙しさでした。準備に手慣れた会員が多く、てきぱき動いてどうにかこうにか開場時間に間に合いました。

閉会の3時30分までの一日の来場者は139人でした。そのほかに28人の会員が会場で説明や片付けなどの運営に加わりました。

名古屋の前田ナーセリーから送ってもらった20本の椿苗と会員育成苗60本、さらにツバキ協会作成のツバキカレンダーも10冊完売でした。



今年は寒さの到来が早く、花の咲き具合が心配されたものの、会員からの多くの出品で例年どおりの椿展に。ただし、例年主役の白侘介、初雁などの侘介系が今年はずいぶん咲かず寂しい思いも。



テーマ花「東方朔」

以下開催通知掲載文（一部）より

「東方朔は西王母よりも一足早く秋口に咲き出し（撮影日平成28年9月17日）、整った輪芯、椀咲、濃淡を帯びた桃色の花弁が深緑の葉と調和し一層の気品を放つ。西王母の実生中もっとも傑出しているとの評価が高い」



ユーレタイド (サザンカ)

出品者 大関惇恕

まさに見頃。多くの人が立ち止まる。サザンカでは珍しい鮮紅色の花弁と黄色の梅芯が美しく調和。ツバキよりサザンカの方が小葉で盆栽向きとの説あり。



紫炎 (グランサム椿系ハイブリッド)

出品者 植竹亨

今年も出ました！昨年の中村さんに続いての出品で再び出会えました。椿のイメージを覆す大輪と花色。秋咲展に欠かせぬ椿となりつつあり。



栄冠 (グランサム椿系ハイブリッド)

出品者 大関惇恕

この交配種の中では珍しい絞り花。大輪秋咲き。大関さんによると庭に植えて現在樹高3mほどに育ち、秋から冬にかけて花が盛りになるとのこと。グランサム系の交配種は耐寒性あり。



椿ミニ講話 (11時より)

講師 飯田庸夫さん

演題 冬の挿し木

一般聴衆41名を数え、会場の隙間に椅子を並べるほどの盛況。熱心な質疑で予定時間オーバー。この後、小泉が展示花の品種を解説しました。



鎌倉絞り (ハルサザンカ)
白斑が大きめに入って華やか。
江戸時代以来の古品種。「鎌倉」
とも。このほかにハルサザンカ
としては星飛竜が出品展示。い
ずれも冬に満開。



夢 (ユーシネンシス系ハイブリッド)
故萩谷薫元日本ツバキ協会会
長 (新潟大学農学部教授) 1981
年発表。ユーシネンシスは茨城
では露地でも育つ中国油茶。展
示花は白斑がやや少ないか。一
枚替わりはさらに見応えあり。



中村茂さん出展
寒椿の赤にサザンカの白がマ
ッチ。中心花は紅妙蓮寺。1 2
月ならではの取り合わせ。
葉っぱもてらてらとツバキの
古名「艶葉木」そのもの。観客
から驚嘆の声がしきり。



中村茂さん撮影椿写真
椿の品種の多様さに感嘆の声
があがっていました。実物が展
示されなかった花もあり、椿へ
の関心をいっそう高めたよう
です。